

# 市政を問う

## 一般質問

12月定例会における市政に関する一般質問は、12月6日、7日に行われ、6人の議員が質問に立ちました。各議員の質問と市長を始めとする当局の答弁要旨は次のとおりです。

(質問議員が執筆し、掲載順序は質問順です)

※質問、答弁の詳細は3月1日頃から半田図書館・亀崎図書館等に設置された会議録でご覧いただけます。また、市議会ホームページにも掲載します。  
※その他、議員ごとにYouTubeへ直接アクセスできるQRコードを掲載しています。

### 市民交流センターの活性化



チャレンジはんだ  
水野尚美

**問** はんだまちづくりひろばの登録団体で、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた団体はどのくらいありましたか。また、影響を受けた団体に対してどのような対応をしたのか伺います。

**答** コロナ禍での活動に回答68団体中、33団体が活動縮小や休止していました。市民活動助成金に「新型コロナウイルス協生部門」を創設し、活動支援をしました。

**問** 活動団体の育成、支援には信頼関係を築くことができる持続可能な中間支援組織が必要と考えます。はんだまちづくりひろばの業務を、職員が数年で異動する必要がある民間へ委託することを提案しますが見解を伺います。

**答** 現時点では市が主体的に協働を進めることに重点を置いています。民間委託も手法の一つとして視野に入れながら、はんだまちづくり

ろばの運営に努めます。

**問** ファミリーサポート事業の利用促進を図るため配布している「お試し無料券」の利用状況を伺います。また、利用期限3歳までの再告知などは予定されていますか。

**答** 令和4年4月から11月末までに59人に配布し、そのうち利用は1件でした。利用については再告知をするなど利用促進に努めます。

**問** 市からの謝金を上乗せすることでファミリーサポート会員数の増加を図っていますが現状はいかがですか。また、援助会員増加のため子育て支援センター事業充実のため、はんだまちづくりひろばとの連携は必要と考えますが、見解を伺います。

**答** 謝金の上乗せをした令和4年4月から11月末までに、援助会員の新規登録者は20人ありました。また、「はんだこそだてフェスタ」には、はんだまちづくりひろばの登録団体にも参加していただいています。子育て中の市民皆さまの希望に応えられるよう、また、援助会員の募集や事業充実のため、今後さらに連携を強化します。



### 子育て支援の更なる充実



公明党  
山田清一

**問** 半田市における妊産婦・子育て家庭への伴走型相談支援の課題について伺います。

**答** 支援が必要なご家庭に寄り添った相談が速やかに実行できるよう更なる専門職員の確保や養成が課題です。

**問** 国において「出産・子育て応援交付金」が創設され、妊娠から出産・子育てまで身近で相談に応じ、必要な支援が拡充されますが、半田市ではどのように取組んでいきますか。

**答** 現時点の想定として、1回目は親子健康手帳交付時に保健師が面談を実施し、2回目の面談はアンケートを送付し、相談希望の方に保健師が面談を行い、3回目の面談は、生後2か月目で実施している「こんちには赤ちゃん訪問」にて行います。また、来年度からは生後1か月の時点で、市独自に電話での相談支援を実施し、支援体制を整備します。

制を整備します。

**問** 伴走型相談支援とともに、妊娠時5万円相当、出生時5万円相当の経済的支援は、自治体により実施方法が異なりますが、半田市ではどのように考えていますか。

**答** 現時点では現金給付が選択肢となりますが、国の示す制度の詳細や他市町の動向を注視し決めていきます。

**問** 伴走型相談支援と経済的支援を合わせたパッケージとして充実させ継続的に実施するための課題と解決策について伺います。

**答** 経済的支援については、継続的な財源の確保が必要です。また、質の高い相談支援ができる専門職員の十分な確保が課題です。解決策として専門職員の採用と離職防止、加えて研修などによる相談技術等の専門性の保証により、子ども家庭センターの体制強化を引き続き図っていきます。

**問** 子育てに関する情報をスマートフォンについて変更できませんか。

**答** 来年度、スマートフォン対応面に変更する準備を進めます。



市政を問う 一般質問 (質問議員が執筆しています)